



日本生涯スポーツ学会
Japanese Society of Lifelong Sports

News Letter

2024 MAY

【目次】

- 会長就任挨拶
- 副会長就任にあたって
- 理事長就任にあたって
- 各委員会委員長あいさつ
- 新役員等体制紹介
- 名誉会員紹介
- 日本生涯スポーツ学会第24回・25回大会の報告
- 萩裕美子先生を偲ぶ会の報告
- 日本生涯スポーツ学会第26回大会のご案内
- 事務局からのお願いとお知らせ
- 新入会員紹介

『会長就任挨拶』



日本生涯スポーツ学会 会長 仲野 隆士

皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。このたび学会総会にて承認され、故萩裕美子会長の志を引き継ぎ会長に就任いたしました。1期2年間、副会長の長ヶ原先生、工藤理事長、事務局をはじめ、理事の諸先生方と連携を深め、学会運営に努めていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2024 年は年明け早々に能登半島で大震災、飛行機事故が発生するなど、心を痛める災害に見舞われました。日本航空の飛行機ではキャビンアテンダントの方々の適切な誘導により、炎上する機内から 14 名が怪我をされたものの奇跡的に乗客全員が降りれたというニュースに安堵しました。しかしながら、奇しくも衝突したのは震災被災地支援に向かう海上保安庁の飛行機で、6人中5名の尊い命が失われるという惨劇となりました。能登地震による被災地では徐々に復旧作業が進んでいる状況にあり、2011 年 3.11 東日本大震災を経験した私としては1日も早く被災地の方々が元の暮らしに戻られることを願わずにはいられません。そして、経験上不自由な生活の中ではあるものの、各種機関・団体による簡易スポーツやレクリエーションの提供により体を動かす事で一時の喜びが得られたり、前に向かう気持ちが復活したり、健康が維持される事を願います。

さて、第 25 回学会大会では、大会テーマを「原点回帰：生涯スポーツ学の体系化をめざして—これまでとこれから—」と題し、キーノートレクチャーでは「生涯スポーツ学のあゆみ」をテーマに川西正志氏(本学会元会長)・田畑泉氏(本学会元副会長)のお二方に生涯スポーツ学のレビューをしていただきました。また、シンポジウムでは「生涯スポーツ学のこれから：体系化をめざして」をテーマに秋吉遼子氏(社会科学の立場から)・松下宗洋氏(自然科学の立場から)・安光達雄氏(実践科学の立場から)のお三方に生涯スポーツ学の体系化について議論を深めていただきました。正に原点回帰、温故知新の試みを通して生涯スポーツ学という学問体系が整理され、我が国における生涯スポーツ領域が目指すべき新たな方向性や学際的な研究テーマ等の方向性が導き出されました。また、この春には本学会の諸先生方で作成してきた『生涯スポーツ実践論』改訂5版が市村出版より出版される予定です。会員の皆様におかれましては、ご自身の授業テキストとして活用、更には教育研究に役立ててくださればと存じます。



『副会長就任にあたって』



長ヶ原 誠(神戸大学)

この度、仲野隆士前副会長から引継ぎ登板となりました。昨年の鹿屋での原点回帰で得たパワーと、萩前会長からの叱咤激励を胸に、本学会でチェストがんばっていきたいと思います。皆様既にご承知のように、本ニュースレターの各写真も含めて 理事・事務局メンバーは、副会長を除き、かなり濃厚な面々です。会員の方々も、この新体制に対し、より濃厚なご協力と叱咤激励をよろしく願いいたします。生涯スポーツの共通の大命題に皆で寄り添い、その可能性を多世代間で語り合い、マスターズ世代とユース世代との合作により、生涯スポーツ学会オリジナルの生涯文化を皆で育てていければと思います。そして、生涯スポーツの研究者としてだけでなく、生涯スポーツの実践者としても、世界におそらく1つしかない本学会の名の元に、会員が自らその可能性を体現し発信していく、アクティブな学会になっていくことも夢見ています。昨年の鹿屋での学会は予想通り濃厚でしたが、それを引き継いで今年の流通科学大学、昼も夜も超濃厚なプログラムになることを確信しています。皆様、ここ神戸で10月にお会いしましょう！

『理事長就任にあたって』



工藤 保子 (大東文化大学)

この度、理事長を拝命することになりました工藤保子と申します。身の引き締まる思いであります、皆様どうぞよろしくお願いいたします。私は、約 25 年間公益財団法人の職員の立場でスポーツ界に関わってまいりました。大学教員の職に就いたのは 7 年前のことになります。そんな私に本学会に対して何ができるのかを自分なりに考えました。本学会の特徴のひとつに「産・官・学」の立場で生涯スポーツに関わる方々が、研究発表や実践報告ができる学会であることがあげられます。ただ、コロナ禍を受けて、生涯スポーツ現場からの実践報告が少し減っているようにも感じます。某映画の名台詞“事件は会議室で起きてんじゃない！現場で起きてんだ！”を受けて、今後一層、生涯スポーツ現場の実践担当者にも、多く本学会に参画していただけるよう、これまでのネットワークを生かして働きがけをしていきたいと考えております。

本学会の特徴のふたつ目としては、大学院生のみならず、学部の学生も参加・発表できる機会を提供していること、運営サイドも比較的若い先生方が中心に、熱心に関わってくださっていることがあげられます。私の役目は、そのような若い先生方が気持ちよく学会活動を行い、実績や業績を積むことができる学会としての存在を守ることだと考えております。至らない点が多々あるかと思いますが、学会員の皆様のお力添えもいただきながら、この役を全うできればと思っておりますので、どうか皆様、よろしくお願いいたします。

『編集委員会委員長就任にあたって』

伊藤 克広（兵庫県立大学）

平素は編集委員会活動にご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。引き続き編集委員会委員長を仰せつかりました兵庫県立大学の伊藤克広です。どうぞよろしくお願いいたします。今回は新たに川西司先生（中部学院大学）と山本直史先生（愛媛大学）に加わっていただき、副委員長：竹内亮先生（大阪体育大学）、上代圭子先生（東京国際大学）、常行泰子先生（神戸市外国語大学）、備前嘉文先生（國學院大学）の体制で進めて参ります。



前任期間中も会員の皆さまから多くの論文をご投稿いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。「学会誌は学会の顔である」ということを改めて肝に銘じ、皆さまの多くの研究成果を発信していけるよう編集委員全員で尽力して参ります。これからも編集委員会活動にご協力のほどよろしくお願いいたします。

『研究企画委員会委員長就任にあたって』

石澤 伸弘（北海道教育大学）

研究企画委員長を留任致しました。よろしくお願いいたします。

日本生涯スポーツ学会も学会大会が 25 回を数え、これまで一貫して、わが国における生涯スポーツの中核的研究組織として歩みを進めて参りましたが、近年ではわが国を取り巻く社会環境の急速な変化とともに、高齢化や少子化、そして人口減社会などの課題がより顕在化してきているところです。



こうした社会環境の下で、将来を担う子供たちがスポーツを始めるための方策や、現在行っているスポーツを継続するための方策、さらには、中高齢者のスポーツ環境の更なる充実化などにも対応した体制構築が急務となってきたといえます。

このような時代だからこそ研究企画委員会では、参画した各委員が限られた機会と時間の中で、「生涯スポーツが、われわれの人生や社会にとってかけがえのない確かなもの」として確立していくための研究や企画を検討して参りたいと思います。会員の皆さま方におかれましては、当委員会の活動に変わらずのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

『広報委員会委員長就任にあたって』

岡安 功（広島経済大学）

この度、新たに広報委員長を仰せつかりました岡安功です。これまで広報委員として活動してきましたものを、さらに推進できるように努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。今期の広報委員会は、谷めぐみ先生、岡本尚樹先生、渡邊夏海先生に加え、青山将己先生、松崎淳先生に加わっていただきました。



広報委員会は、News Letter や学会公式サイトを通じて、情報を発信に努めてまいります。また学会員の

皆様からの情報も、より多くの方々と共有することもできればと考えております。

引き続きより学会活動の促進につながる広報活動を模索したいと考えております。会員の皆様には、引き続き本会の広報活動にご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

『総務委員会委員長就任にあたって』

彦次 佳（関西大学）



今期より事務局を仰せつかり、総務委員長となりました関西大学人間健康学部の彦次佳です。同事務局では、同じく関西大学人間健康学部の谷所慶先生と佐野加奈絵先生にご協力を頂きながら、事務局を運営してまいりますので、これからどうぞよろしくお願い致します。

本学会とは、2001年に鹿屋体育大学で開催されました第3回大会に初めて参加した後、大学院生のときに山口先生と長ヶ原先生の下で事務局のお手伝いをさせていただき等、かれこれ20年以上のお付き合いとなりました。なかでも、2001年の第3回大会は自分にとっての初めてのアカデミックな場であり、この世界に興味を持ち始めた頃の自分にはとても刺激的で、「こんな世界があるんだ」と胸を躍らせたことを今でもはっきりと覚えています（その時に宿泊した大隅青少年自然の家での記憶も…）。このような経験・体験を、これからこの世界に飛び込んでくる学部生や院生、教育機関以外の方々、そしてもちろん既に学会員となっている皆さんに、たくさん味わっていただけるよう、事務局として学会の運営に携わって参ります。任期初頭におきましては、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆さまのご協力も賜りながら、精進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

【新役員等体制紹介】

日本生涯スポーツ学会 役員・顧問・委員会・事務局

(任期:2023 年度総会終了後～2025 年度総会まで) <敬称略>

会 長	仲野 隆士 (仙台大学)	
副会長	長ヶ原 誠 (神戸大学)	
理事長	工藤 保子(大東文化大学)	
理 事	伊藤 克広(兵庫県立大学)	石澤 伸宏(北海道教育大学)
	岡安 功(広島経済大学)	彦次 佳(関西大学)
監 事	松本 耕二(広島経済大学)	久保田 晃生(東海大学)
編集委員会	委員長 伊藤 克広(兵庫県立大学)	
	副委員長 竹内 亮(大阪体育大学)	
	委員 常行 泰子(神戸市外国語大学)	備前 義文(國學院大学)
	上代 圭子(東京国際大学)	川西 司(中部学院大学)
	山本 直史(愛媛大学)	
研究企画委員会	委員長 石澤 伸弘(北海道教育大学)	
	副委員長 工藤 康宏(武庫川女子大学)	
	委員 大勝 志津穂(相山女学園大学)	山田 亜沙妃(広島経済大学)
	安光 達雄(PCY, Ltd.)	山口 志郎(流通科学大学)
広報委員会	委員長 岡安 功(広島経済大学)	
	委員 谷 めぐみ(摂南大学)	岡本 尚己(東海大学大学院)
	渡邊 夏海(東京 YMCA 社会体育・保育専門学校)	
	青山 将己(流通科学大学)	松崎 淳(九州共立大学)
総務委員会 兼 事務局	委員長 彦次 佳(関西大学)	
	副委員長 谷所 慶(関西大学)	
	委員 佐野 加奈絵(関西大学)	

【名誉会員】

(2023 年 12 月 2 日に開催された総会において承認されました)

<敬称略>

川西 正志
 田畑 泉
 野川 春夫
 山口 泰雄
 萩 裕美子 (故人)

日本生涯スポーツ学会第24回大会のご報告

2022年10月29日(土)～30日(日)の2日間にわたって、第24回学会大会を愛知東邦大学にて開催いたしました。コロナ禍明けの対面開催で不安な部分もありましたが、多くの会員の皆様にご参加いただき、成功裏に終えることができました。実行委員会を代表して御礼申し上げます。

日本生涯スポーツ学会第24回大会実行委員会
委員長 愛知東邦大学 教授 大勝志津穂

<大会概要>

■ 期日:2022年10月29日(土)～10月30日(日)

■ 場所:愛知東邦大学 名古屋市名東区平和が丘3-11

■ 主催:日本生涯スポーツ学会

■ 主管:日本生涯スポーツ学会第24回大会実行委員会

<所属先は2022年10月時点>

大会会長 鶴飼 裕之(愛知東邦大学)

実行委員長:大勝 志津穂(愛知東邦大学)

会計:杉谷 正次(愛知東邦大学)

企画・事務:伊藤 央二(中京大学)・井澤 悠樹(東海学園大学)・川西 司(中京大学)

会場:竹下 俊一(至学館大学)

広報・渉外:小泉 和也(名城大学)

■ 協賛企業・団体 大学(14団体):

有限会社市村出版、株式会社イープロ、株式会社協栄、公益財団法人笹川スポーツ財団、
公益財団法人健康・体づくり事業財団、公益財団法人日本スポーツクラブ協会、
株式会社ヤクルト東海、愛知東邦大学、大阪体育大学、順天堂大学、東海学園大学、東海大学、
学校法人東邦学園、北翔大学

■ 大会テーマ: 2026 アジア大会を見据えた愛知県のスポーツ振興
～スポーツイベントが結ぶ地域における多様な人々～

【大会日程】

	10月29日(土)	10月30日(日)
9:30	開会式(30分)	
10:00	基調講演(50分)	パネルディスカッション(100分)
10:30		
11:00	口頭発表1 A・B(90分)	
12:00		口頭発表4 A・B(90分)
12:30	昼食(ランチ懇談会)	
13:00		閉会式(30分)
13:30	総会(40分)	
14:00		
14:30	口頭発表2 若手研究発表(90分)	
15:00		※時間・内容は、発表演題数等により変更される場合があります。
15:30		
16:00	口頭発表3 A・B(90分)	
16:30		
17:00		
17:30	ポスター発表 質疑(50分)	
18:00		
18:30	イブニングセッション	
19:00		
19:30	終了	

- 大会参加者 120 名
- 発表演題数 若手発表:7 題 一般口頭発表:20 演題 ポスター発表:14 題

1. 基調講演

テーマ: Sport, Health and Happiness in the Context of Asian Games

演者: Dr. Huimei Liu (Zhejiang University)

司会: 伊藤 央二 (中京大学)

2. パネルディスカッション

テーマ: スポーツイベントが結ぶ地域における多様な人々

パネリスト: 兒玉 友 (日本福祉大学)

佐藤 剛史 (名古屋グランパスエイト)

山肥田 徳文 (愛知県スポーツ局スポーツ振興課)

來田 享子 (中京大学)

指定討論者: 杉山 直樹 (愛知県スポーツ局アジア・アジアパラ競技大会推進課)

モデレーター: 井澤 悠樹 (東海学園大学)

3. イブニングセッション

アクセプトまでの道筋—日本語・英語の学術誌の編集委員から—

登壇者: 伊藤 克広 (兵庫県立大学国商経学部・生涯スポーツ学研究編集委員長)

伊藤 央二 (中京大学スポーツ科学部・Journal of Leisure Research Senior Associate Editor)

世話人: 與那覇 秀勲 (兵庫県立大学大学院)

川西 司 (中京大学大学院)

■ 表彰

○ 若手研究論文発表賞

村部 聡亮 (大阪体育大学大学院)・藤本 淳也 (大阪体育大学)・田中 あかり (大阪体育大学研究生)
プロ野球チームファンのチームの価値認識とSDGs 関連活動認知に関する研究

○ 若手研究論文発表奨励賞

紺田 俊 (鈴鹿大学、大阪体育大学大学院)・富山 浩三 (大阪体育大学)

日本ハンドボールリーグ観戦者の行動意図に及ぼす影響～サービス・プロフィット・チェーンの視点から～

○ ポスター発表賞 (大学院生部門)

【奨励賞】

岡本 尚己 (東海大学大学院体育学研究科博士課程後期)・

稲益 大吾 (東海大学大学院体育学研究科博士課程後期・((公財)しずおか健康長寿財団)・

久保田 晃生 (東海大学)

「防災・減災」の視点を取り入れた身体活動促進・体力向上を図る介入研究の動向: スコーピングレビュー

○ ポスター発表賞（学部生部門）

【最優秀賞】

太田 明李(中京大学スポーツ科学部 4 年)・川西 司(中京大学スポーツ科学研究科)・伊藤 央二(中京大学スポーツ科学部)

在留ブラジル人の名古屋グランパスエイトの試合観戦における阻害要因と観戦経験

【優秀賞】

大西 優衣(同志社大学スポーツ健康科学部)・二宮 浩彰(同志社大学)

コロナ禍におけるBリーグの入場者数に影響を及ぼす要因

矢羽田 珠利・橋本 雅也・西田 勇希・狩野 稜太(広島経済大学経営学部)・松本 耕二・渡辺 泰弘(広島経済大学)

ボールパークのコロナ対策に関する観戦者の感情反応と行動意図に関する研究～MAZADA Zoom-Zoom スタジアム広島を事例として～

【奨励賞】

本山 大輝・石井 千奈美・奥田 遥・吉口 尚樹(神戸大学国際人間科学部)・

三浦 敬太・松崎 淳(神戸大学大学院人間発達環境学研究科)・長ヶ原 誠(神戸大学)

成人層におけるスポーツへの質的関与が運動実施頻度に及ぼす影響の検討～市民調査による男女比較分析を通じて～

■ 日本生涯スポーツ学会第24回大会【学生訪問記】

日本生涯スポーツ学会第24回大会の発表を終えて

矢羽田 珠利

(広島経済大学経営学部3年:当時)



今回の日本生涯スポーツ学会第24回大会では、同じチームで2題ポスター発表を行いました。発表テーマは、「日本ハンドボールリーグ観戦者の特性に関する研究～イズミメイプルレッズを事例として～」、「ボールパークのコロナ対策に関する観戦者の感情反応と行動意図に関する研究～MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島を事例として～」です。

学会発表に向けて準備を進めていくなかで大変だったのは、分析結果からのまとめです。クラスター分析やクロス集計の結果から、各クラスターにどのような属性があるのか、どういった関係性があるのか理解するのが大変でした。発表後の質疑応答の際、他大学の先生から「各クラスターに名前をつけると、また理解が深まるよ」というアドバイスをいただきました。ただ分析結果をまとめるのではなく、名前をつけることで私達も聞き手もわかりやすくなると思いました。

また、発表を通じて改めて感じたことは、伝えることの難しさです。声の抑揚、目線、身振りや手振り、要点の強調など“伝える”にも多くの技術が必要だと再認識しました。これらは一朝一夕でできるものではなく、発表前日にメンバーで集まったり、会場で先生や他大学の先生方からアドバイスをいただいたりして、よりよいものになるよう何回もリハーサルを行いました。本番では、リハーサルよりいい発表ができたメンバー全員が感じました。

学会に参加して、普段先生方の発表や他大学の方の発表を聴く機会や、学外の方から評価をいただく機会が少ないため、興味深い研究内容や“伝わる”発表の仕方など、多くのことを学んだ有意義な2日間となりました。また、参加したメンバーから「準備が大変だったけど、成長に繋がったから挑戦してよかった」という感想もあり、この学会で経験できたこと、学んだことをこれからの発表や卒業研究、社会に出ていくなかで活かしていければと思います。

日本生涯スポーツ学会第24回大会の発表を終えて

田中 将貴

(北海道教育大学札幌校3年:当時)



私たち、北海道教育大学札幌校の3年生は今回初めての学会への参加・ポスター発表でありました。学会へ参加するに当たり、「研究者の諸先輩方の研究方法や成果を知り、自分の今後の活動につなげる」や「自分たちのポスターをスムーズに発表し、そして客観的な意見・質問を得ること」を目標にして臨みました。

学会では様々な方々の研究発表を聞く中で、これからどのような進歩が要求されているのかなど、実に興味深い研究を目の前で聴くことができました。今の社会ニーズに直結した研究をされている発表では、大学では触れたことのないようなビジネスの係わり合いの一端を垣間見れることもあり、大変刺激を受けました。また、私たちのポスター発表については、発表を聞いてくださった方には全体的にスムーズに発表することができたと思っています。質問に関しても、なんとか自分の考えを伝えることができたと思っています。聴講者の方々には、自分と異なる視点から質問やコメントを頂き、気付かなかった新たな着眼点や考え方、検討が不十分だったところや今後の課題も明確になり、自分の視野や研究の可能性を広げる意味でも有意義な機会になりました。このきっかけを活かして、単に研究を行っただけで終わりということではなく、それに対する多くの角度からアドバイスされたことを、これからの検討や研究に活かしていきたいと思っています。

最後に、研究者や学生などの貴重な研究内容を聴くことができ、その幅広い視野や見識に非常に感銘を受けました。貴重な機会を設けて頂いたことに感謝するとともに、何事も経験というように、今回の経験を自らのプラスに変えることができるように、日々励みたいと思います。



久屋大通庭園フラリエ

(写真提供:愛知県観光協会:久屋大通庭園フラリエ)

日本生涯スポーツ学会第25回大会のご報告

2023年12月2日(土)～3日(日)の2日間にわたって、第25回学会大会が鹿屋体育大学において開催されました。多くの会員の皆様にご参加いただき、成功裏に終えることができました。実行委員会を代表して御礼申し上げます。

日本生涯スポーツ学会第25回大会実行委員会
委員長 鹿屋体育大学 教授 北村尚浩

- 期 日：2023年12月2日(土)～3日(日)
- 場 所：鹿屋体育大学
- 主 催：日本生涯スポーツ学会
- 主 管：日本生涯スポーツ学会第25回大会実行委員会 <所属先は2023年12月時点>
 実行委員長：北村 尚浩(鹿屋体育大学)
 副委員長：関 朋昭(鹿屋体育大学)
 総務：隅野 美砂輝(鹿屋体育大学)・久保田 晃生(東海大学)
 プログラム：石澤 伸宏(北海道教育大学)
 会場：坂口 俊哉(鹿屋体育大学)
 会計：山田 理恵(鹿屋体育大学)・棟田 雅也(鹿屋体育大学)

- 協賛企業・団体 大学(8団体)：
 有限会社市村出版、公益財団法人笹川スポーツ財団、斯文堂株式会社、セノー株式会社、
 公益財団法人日本スポーツクラブ協会、国立大学法人鹿屋体育大学、東海大学、北翔大学

- 大会テーマ
 原点回帰：生涯スポーツ学の体系化をめざして
 -これまでとこれから-

■ 大会日程

	12月2日	12月3日
8:45	開会式	
9:00	キーノートレクチャー	口頭発表A-3、B-3、C-3
10:30	口頭発表A-1、B-1、C-1	
11:40	総会	
12:30	スポーツパフォーマンスセンター 見学ツアー	閉会式(12:10～)
13:50	口頭発表A-2、B-2、C-2	
15:00	シンポジウム	
17:00	ポスター発表	
19:00	懇親会	

- 大会参加者 171名
- 発表演題数 若手発表：10題 一般口頭発表：30演題 ポスター発表：20題

1. キーノートレクチャー

テーマ：生涯スポーツ学のあゆみ -社会科学の研究アプローチの課題の検証-

演 者：川西 正志(北翔大学)

テーマ：私的生涯スポーツ学

演 者：田畑 泉(立命館大学スポーツ健康科学部 特命教授)

2. パネルディスカッション

テーマ:生涯スポーツ学のこれから:体系化をめざして

パネリスト:秋吉 遼子(東海大学):社会科学の立場から

松下 宗洋(東海大学):自然科学の立場から

安光 達雄(日本スタビライゼーション協会):実践科学の立場から

コーディネーター:山口 泰雄(神戸大学名誉教授)

工藤 保子(大東文化大学)

■ 表彰

○ 若手研究論文発表賞

徳田 真彦(大阪体育大学)・棟田 雅也(鹿屋体育大学)・篠原 準(富山学園南房総市立富山中学校)・

神保 清司(南房総市大房岬自然の家(NPO 法人千葉自然学校))・白井 健(合同会社くじらのもり)・

花嶋 桃子(南房総市大房岬自然の家((NPO 法人千葉自然学校))

学校教育としての自然体験活動における地域愛着構造の質的検討

○ 若手研究論文発表奨励賞

稲益 大悟(東海大学大学院体育学研究科博士課程後期)・

岡本 尚己((公財)しずおか健康長寿財団)・久保田 晃生(東海大学)

地域の都市化率により移動時の徒歩・自転車利用は異なるか?～中小規模の地域間における検討～

○ ポスター発表賞 (大学院生部門)

【最優秀賞】

叢 瑋(中京大学大学院スポーツ科学研究科)・伊藤 央二(中京大学スポーツ科学部)

観光動機とスポーツツーリズムの行動の関連性～Iso-Ahola の観光動機理論の援用～

【優秀賞】

太田 明李(中京大学大学院スポーツ科学研究科)・伊藤 央二(中京大学スポーツ科学部)

観戦経験別によるWEリーグ観戦者の観戦動機～男女統合型クラブに着目して～

○ ポスター発表賞 (学部生部門)

【最優秀賞】

森口 翔那汰・熊谷 有紗・伊藤 未葉・野添 陽菜乃・臼井 孝介(中京大学スポーツ科学部3年)・

太田 明李(中京大学大学院スポーツ科学研究科)・伊藤 央二(中京大学スポーツ科学部)

聴覚障害者のバスケットボールの試合観戦における阻害要因

【優秀賞】

船越 和真・中川 雅貴・野村 圭佑・河村 隆之介(神戸大学国際人間科学部)・

三浦 敬太(神戸大学大学院人間環境学研究科)・長ヶ原 誠(神戸大学)

運動・スポーツ実施と加齢観に関する研究

【奨励賞】

工藤 華子(中京大学スポーツ科学部)・

太田 明李(中京大学大学院スポーツ科学研究科)・伊藤 央二(中京大学スポーツ科学部)

育児期女性からみるサッカー継続要因

■ 日本生涯スポーツ学会第25回大会【学生訪問記】

第25回日本生涯スポーツ学会を終えて

岡田 航之佑

(天理大学体育学部4年:当時)



日本生涯スポーツ学会大会への参加は初めてでした。私は「トレーニング実践者におけるサプリメントや健康食品の消費行動に対する決定要因について」の調査を行い、半構造化式インタビューを用いて、分析した結果をポスターにまとめ発表しました。

今回の学会発表では、沢山の課題が浮き彫りになりました。まずは「言葉の選び方」です。私の担当教員に指導していただき、改めて、いかに日常的に適切な言葉を使っているのかを思い知らされました。言葉一つで文章全体の意味が変わってしまいます。そこに気づけたことはこの学会に向けての準備で得られた成果だと考えています。

次に「準備」について課題を感じました。以前、韓国でのAsia forumで出会った先生にご教授頂きました。それは「プレゼンは言語ではない。準備をどれだけするか」と教えていただき、「次の学会ではしっかりと準備していこう」と意気込んでいました。ですが、私は思うように準備ができず、納得のいく発表が出来ませんでした。次は同じ失敗を繰り返さないように学問に限らず人生においても「準備」を徹底していきます。

今回の学会を通じて、多くの方々と接することが出来ました。真剣に一つの学問と向き合い作り出された発表を聞くことができ、とても刺激的でした。また、学生同士での議論が出来る場こそ、学生にとって一番成長できる場所だと感じました。今回の学会で一番、衝撃的だったのは、シンポジウムです。社会科学、自然科学、実践科学の立場から生涯スポーツ学を体系化するために議論し学問を作っていく。あの場は私が初めて学問の可能性を感じました。とても素晴らしい瞬間を体験できました。

今回の学会参加で、多くの「学問」と「人」に出会うことが出来ました。生涯スポーツの無限の可能性に心が躍りました。今回の学会での経験を活かし、次は世界で正解のない世界を突き詰めていきます。

第25回日本生涯スポーツ学会を終えて

本田 真由

(同志社大学スポーツ健康科学部 4年:当時)



日本生涯スポーツ学会第25回大会に参加させて頂きました。同志社大学二宮ゼミに所属しております、本田真由と申します。今回、二宮ゼミからは私一人の参加であったため、心細く不安を感じる場面も多々ありましたが、最後まで丁寧にご指導頂いた二宮先生には大変感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

私が行った発表のテーマは、「『スポーツライフ・データ』におけるスポーツ観戦率の推移～プロスポーツリーグと観戦スタイル別の比較～」です。スポーツ観戦率を、「スタジアムでの直接観戦、テレビでの観戦、インターネットでの観戦」という3つのスタイル毎に、また、「プロ野球、Jリーグ、Bリーグ・bjリーグ」という3つのプロスポーツ毎に検討し、今後の観戦率の動向について予測することを目的としました。中々面白い結果が出なかったため、二宮先生と内容のブラッシュアップを続ける日々でした。また、学会での発表は今回が初めてだったので、発表直前は人生で一番と言っているほど緊張していました。そんな中無事に発表を終えたことは、自分の中で大きな自信に繋がっていると感じています。発表終了後、他大学の先生方、学生の方々から直接質問やご講評をして頂きました。自分には無い視点や発想に触れることができ、大変勉強になりました。また、他大学の学部生の方々の発表はどれも出来栄の高いものばかりで、「自分も負けずに頑張ろう」と、今後の研究活動に対するモチベーションが高まったと感じています。

今回の学会大会への参加を通じて、多くのことを学ばせて頂きました。先生方の発表を拝聴する機会だけでなく、懇親会など、他大学の方との交流の機会も与えて頂き、自分自身の成長に大いに繋がったと感じています。末筆ではございますが、学部生にも学会大会に参加するチャンスを与えて下さった、学会大会の実行委員会、および学会事務局の先生方に感謝申し上げます。



かのやばら園

(写真協力:公益社団法人 鹿児島県観光連盟)

萩 裕美子先生を偲ぶ会

萩 裕美子先生(享年 63 歳)

(東海大学体育学部 スポーツ・レジャー・マネジメント学科教授、体育学研究科長)

日本生涯スポーツ学会前会長の萩裕美子先生が、2023 年 4 月 19 日(水)にご逝去されました。2023 年 12 月 1 日、鹿屋市のホテルさつき苑において、偲ぶ会が開催されました。

萩裕美子先生は、東京 YMCA 社会体育専門学校、鹿屋体育大学、東海大学において生涯スポーツ分野における教育・研究に従事されました。またスポーツ庁のスポーツ審議会健康スポーツ部会委員や運動・スポーツガイドライン(仮称)策定に向けた有識者会議委員、厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会審議会部会委員等、わが国のスポーツ振興、健康増進に関する重責を担い、大きな功績を残されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

【 2023 年 12 月 1 日 於:鹿屋市 ホテルさつき苑】



日本生涯スポーツ学会第26回大会のご案内

2024年度の学会大会は、10月26(土)～27(日)にかけて、流通科学大学において開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日本生涯スポーツ学会第26回大会実行委員会
委員長 流通科学大学 教授 山口志郎

□期日:2024年10月26日(土)～27日(日)

※25日(金):プレイベントとしてスチューデントセミナー(予定)

■場所:流通科学大学

〒651-2188 兵庫県神戸市西区学園西町3丁目1番

□大会テーマ:生涯スポーツを通じたDE & I(Diversity, Equity & Inclusion)の実現に向けて

■抄録締切:2024年8月23日(金)

今後、学会ウェブサイト等で随時情報を更新していきます。

【編集委員会からのお知らせ】

本学会では通年で論文の投稿を受け付けております。できる限り速やかな審査を心がけて参ります。投稿の際には学会ホームページをご参照いただいた上で原稿の執筆をお願いいたします。

皆さまのご投稿をお待ちしております。

日本生涯スポーツ学会事務局(学会入会及び年会費の問い合わせ)

〒590-8515 大阪府堺市堺区香ヶ丘町1丁目11番1号 関西大学 人間健康学部 彦次研究室

e-mail: jp.lifelong.sport@gmail.com 担当者: 彦次 佳

【事務局からのお願いとお知らせ】

<年会費>

年会費の納入状況について、確認したい方は遠慮なく事務局にご連絡ください。また、本学会退会の際は、退会される年度の年会費の納入をお願いしておりますので、お知りおきください。

【新入会員紹介】 2023年4月1日～2024年3月31日現在 理事会承認分

- | | |
|--------------------|------------------|
| 植田 晃輔(東海大学大学院) | 徳田 真彦(大阪体育大学) |
| 栄 蓉(大阪体育大学大学院) | 徳田 萌里(関西大学大学院) |
| 太田 明李(中京大学大学院) | 西田 千裕(大阪国際大学) |
| 岡 亮志(桐蔭横浜大学大学院) | 西野 祐司(大阪体育大学) |
| 岡本 純也(一橋大学大学院) | 野口 慎平(鹿屋体育大学) |
| 川村 昂(関西大学大学院) | 畑守 哲明(株式会社やまちゃん) |
| 叶 敬偉(上海市市北初級中学) | 韓 有頌(大阪体育大学大学院) |
| 黒田 佳代(中京大学大学院) | 水谷 莉子(大阪体育大学) |
| 小坂井 留美(北翔大学) | 宮川 幹平(東海大学) |
| 佐藤 博幸(国立青少年教育振興機構) | 山口 章夫(同朋大学) |
| 佐藤 桂(至学館大学) | 弓田 恵里香(仙台大学) |
| 佐野 加奈絵(関西大学) | 來田 享子(中京大学) |
| 叢 瑋(中京大学大学院) | 李 博雅(大阪体育大学大学院) |
| 竹田 唯史(北翔大学) | 呂 姝凝(関西大学大学院) |
| 千明 詩菜(東海大学大学院) | |
| 程 文静(鹿屋体育大学大学院) | |

(敬称略)



【編集 日本生涯スポーツ学会 広報委員会】

日本生涯スポーツ学会事務局

〒590-8515 大阪府堺市堺区香ヶ丘町1丁目11番1号
関西大学 人間健康学部 彦次研究室
E-mail: jp.lifelong.sport@gmail.com HP: https://jsls.jp